

地球温暖化防止やSDGsの目標達成を目指し、
環境にやさしい住まいや住まい方が求められています。
環境にやさしい住宅・まちづくりの取組事例や住まい方のアイデアの応募がありました。

第11回

埼玉県 環境住宅賞 作品集



埼玉県マスコット
「コバトン&さいたまっち」

主催：  埼玉県住まいづくり協議会 後援： 彩の国  埼玉県



今年は新築案件が少なかったが、リフォームもまちづくり部門も提案があり、またアイデア部門も学生部門も頑張って提案をしてくれたのはうれしかった。

埼玉県知事賞を受賞した越屋根の家のように、伝統的な設計手法で快適な家を作ったものもあれば、昨今のシミュレーションなどの先端技術を利用して、より良い環境を創りあげようという方法論もあり、今後様々な方法によってより快適で、環境に良い住宅がつくられるようになることが予想された。

しかし、毎回同じように問題と思ったのが、階段の危険性である。バリアフリーの性能も考えると、踏面を広く、蹴上げを少しでも小さくすることが負担なく階段利用を図ることだが、さらに言えば、踊り場に斜め段を作ることが常態化しているようだ。直線で歩く階段が基本とし、斜め段をつくることは避けてほしい。特に足を踏み外せば40cmも60cmも落ちてしまうことは危険な設計といわなくてはならない。

また、コストを抑えるためにポツ窓といわれるように小さな窓にすることも本来の健康的な太陽熱と太陽光利用から遠くなる手法で望ましくない。機械仕掛けの家を避け、自然の力でまた自然と一体化する家を目指しながら、省エネ・省CO₂の家づくりを目指してほしい。まちづくりについても、宅地が狭小化し、逆に道路率が大きすぎて、反転現象が生まれている。道路にも緑化し、車優先でなく人の空間を主体と考える土地利用を望みたい。

(中村 勉 委員長)



第11回 埼玉県環境住宅賞の流れ

審査委員会	令和6年5月1日						
募集	令和6年6月20日～9月30日						
応募作品	15作品						
▶ 住宅提案部門	<table border="0"> <tr> <td>新築部門</td> <td>6作品</td> </tr> <tr> <td>リフォーム部門</td> <td>1作品</td> </tr> <tr> <td>まちづくり部門</td> <td>1作品</td> </tr> </table>	新築部門	6作品	リフォーム部門	1作品	まちづくり部門	1作品
新築部門	6作品						
リフォーム部門	1作品						
まちづくり部門	1作品						
▶ 住まいのアイデア部門	<table border="0"> <tr> <td>未来アイデア部門</td> <td>3作品</td> </tr> <tr> <td>身近なアイデア部門</td> <td>0作品</td> </tr> </table>	未来アイデア部門	3作品	身近なアイデア部門	0作品		
未来アイデア部門	3作品						
身近なアイデア部門	0作品						
▶ 学生部門	4作品						
審査委員会	令和6年10月21日 (作品審査)						
表彰式	令和6年12月25日						

目次



審査委員長総評	1p
目次	1p
埼玉県知事賞	2p
優秀賞	3p
審査委員長特別賞	4p
協議会会長特別賞	5p
入選	6～10p
奨励賞	11～12p
応募作品	13p

越屋根の家



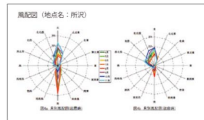
【越屋根の家】～武蔵野の風景を継承する現代農家のすまい

川越で代々つづいたもの観光農園を営む農家さんの母屋建替計画です。既存の母屋は築50年ほどでしたが、随所に良質な建具が使われ、互の乗った入母屋屋根の典型的な農家のつくりでした。周辺の農家は市街化に伴い規格型の住宅に建て替わり、このような武蔵野の農家の佇まいが薄なる景観は急速に失われようとしていました。

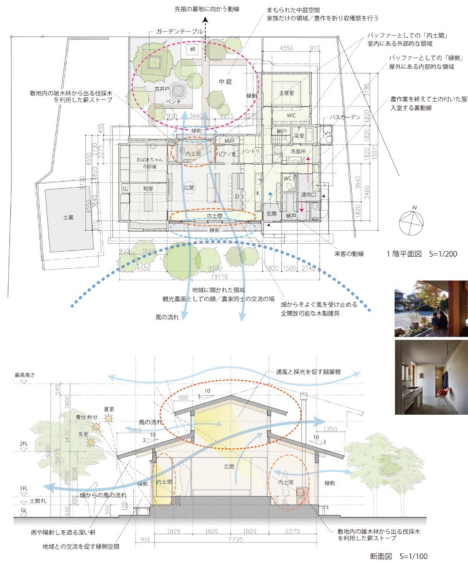
そこで建て替わる新しい母屋は、周辺環境に馴染む低いプロポーションに抑えた越屋根を持つ家とし、見渡す限りの茅葺をそよ風を利用した通風や採光を採り入れると共に、新しくも昔からそこに建っていたかのような佇まいとなるよう心がけました。

南側には広い縁側を設け、農作業後の休憩や近所の方たちとの交流の場となるよう、室内とも連続した開かれた作りとしています。室内には上足で上がる現代的な土間空間を設けることで、幾重にもレイヤードされたバッファー空間となるようとしています。このことにより、室内と屋外とはまもられながらも一体となったような空間となりました。

住宅の外壁や木塀には地場の杉材を使用し、深く延ばした軒とともに周辺環境に馴染ませました。豊かな自然環境と共生する、現代農家のための新しいすまいです。



■ 風の経路と越屋根
 1階部分の農家「母屋」の風況図。狂風が強く7～8月の半年には特に強い。南風が吹くことがわかる。敷地周辺に農家ばかりで、風を遮るものがないため、この南風を効率よく受け止めるための屋根形状として、農家の伝統的な屋根形状である「越屋根」を採用し、自然通風を促すとともに、1階の吹き抜けを確保し、自然通風を促すことを図っている。



所在地	川越市
構造・階数	木造2階
敷地面積	1664.74㎡
延床面積	222.20㎡
建築面積	202.14㎡
工事費	約9,180万円（税別）
居住者構成	15歳以上65歳未満3人、65歳以上1人 合計4人
応募者	株式会社リオタデザイン 代表取締役 関本 竜太
設計者	株式会社リオタデザイン 関本竜太
施工者	堀尾建設株式会社

講評

本作は農家の母屋の建替えて、広い敷地に周辺に豊富な植栽と恵まれた環境ではあるが、建築的な秀逸さを評価して埼玉県知事賞とした。武蔵野の農家の佇まいを残すことを意図して、低いプロポーションで計画し、越屋根や深い軒、縁側・土間などの伝統的な手法をとりながらも現代の生活に合致させ、かつ断熱性能や一次エネルギー消費量で高性能を達成している。南側の大開口窓により、風が良く通るであろうと想像され、また太陽光も北側の内土間に届かせる計画で、広間が明るく魅力的な空間となっている。木材をふんだんに使った内外装も魅力的であり、外壁や木塀には地場の杉材を使用したとのこと。総合的に環境配慮を考えている秀作である。

（講評：松岡 大介 委員）

優秀賞

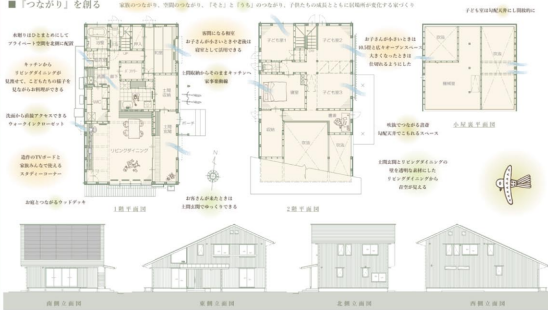
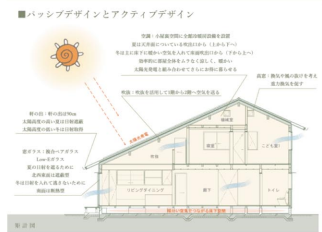
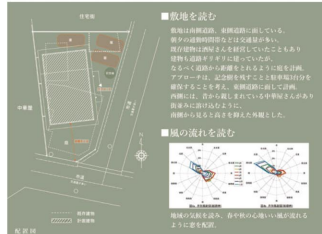
住宅提案部門（新築部門）



天神の家

暮らしの理想を追求し、新たな価値を生み出す。新築がもたらす生活の質の向上を追求し、人と人とのつながりを大切にする。住居の質を高めることこそが、住居の本質である。住居の質を高めることこそが、住居の本質である。

概要
 所在地 東京都
 建築年度 第一種住居地域
 構造 木造2階建て
 延床面積 260.36㎡
 建築費 約3,000万円
 居住者構成 15歳未満3人、15歳以上65歳未満2人 合計5人



天神の家

所在地	深谷市
構造・階数	木造2階
敷地面積	260.36㎡
延床面積	145.74㎡
建築面積	89.43㎡
工事費	約3,000万円
居住者構成	15歳未満3人、15歳以上65歳未満2人 合計5人
応募者	株式会社小林建設
設計者	株式会社小林建設一級建築設計事務所
施工者	株式会社小林建設

講評

日本人が希薄になりつつある「つながり」に着目し、挑戦した家創りに称賛を送ります。（厚生労働白書意識調査によると、全体的につき合うは20%、形式的につき合うは35%が現状のようです。）

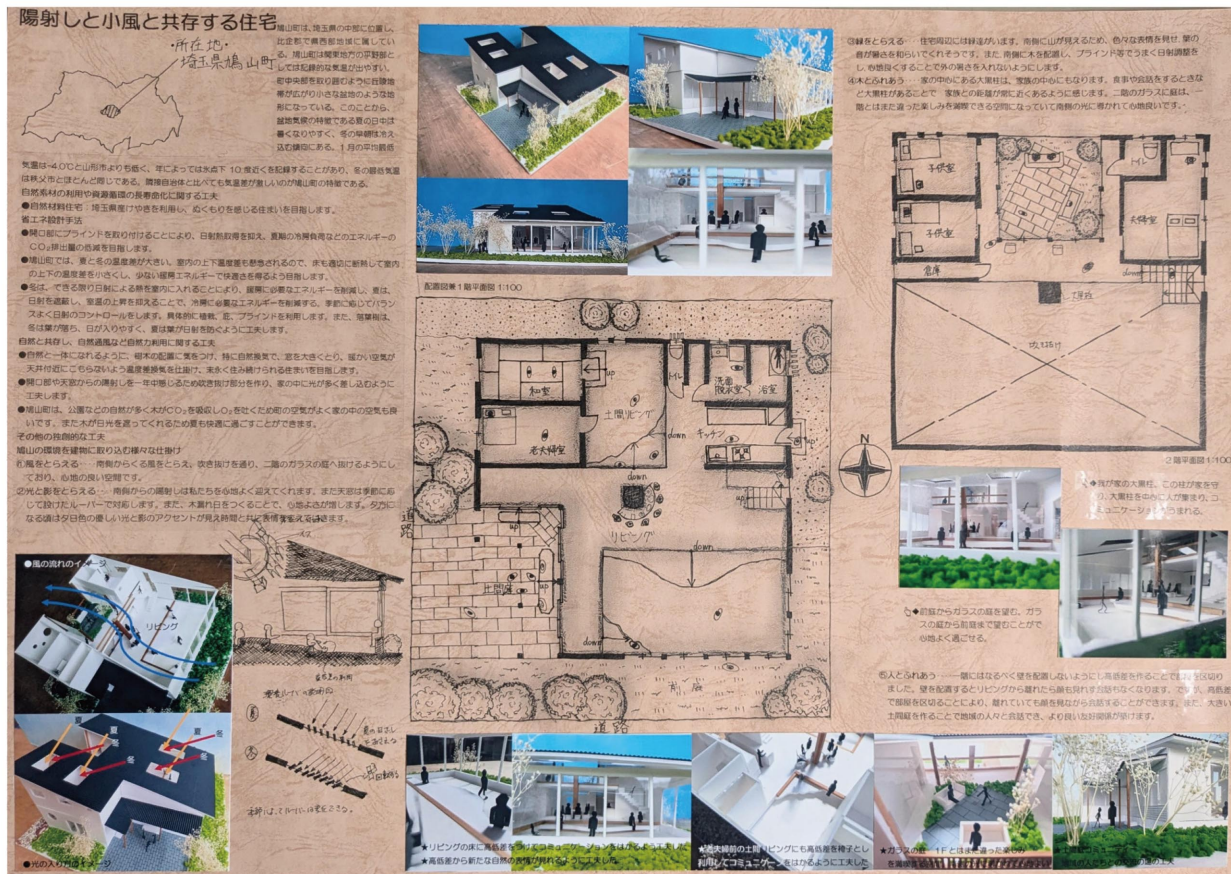
この作品は、土間から直接リビングへ繋がる空間構成とし、デザイン性に工夫しつつも、どこか懐かしい昭和の風情を残し、家族の笑い声が響き、気軽に知人・友人が訪れることのできるお家と想像できます。

また、一日の大切な時間をリビングに腰掛け、光の変化を感じながら、吹き抜けから子供たちの声も聞こえてくるステキなお家として出来上がりました。これからも家族や地域の方々が、楽しいと思えるような家創りに邁進してください。

（講評：廣瀬 正美 委員）

陽射しと小風と共存する住宅

所在地	比企郡鳩山町
構造・階数	木造2階
敷地面積	400㎡
延床面積	197㎡
建築面積	209㎡
居住者構成	15歳未満2人、15歳以上65歳未満4人 合計6人
応募者	野原 瑠瑯 (埼玉県立熊谷工業高等学校)



講評

とにかく、高校生が自分の感性をフルに生かして設計したことが感じ取れてうれしかった。一般の常識を顧みず、土間庭から直接リビングへ入り、二つの居間にもあえて段差をつけ、自由なコミュニケーションができたり、もしかしてここは土間座かもしれないと土のおい、土の暖かさなどをひそかに期待したりもした。空気の流れ、自然の光が満ちあふれている。自然の気持ちよさをどのように室内に持ち込めるか、一生懸命考えてきた経緯が見て取れる。玄関から居間を通して階段や2階の外庭につながる空間の流れが心地よい。これを発見した時、野原さんはやったと思っただろう。これが設計の楽しみなのだ。それぞれの部屋や丁度の大きさなど、勉強しなくてはならないことは多いが、きっとこの空間の魅力を信じて、今後さらに良い空間を設計してほしいと思った。

(講評: 中村 勉 委員長)

順応する家 -Adaptation House-



所在地	鴻巣市
構造・階数	鉄筋コンクリート（一部木）造 2階
敷地面積	189.31㎡
延床面積	83.35㎡
建築面積	84.75㎡
居住者構成	15歳以上65歳未満2人 合計2人
応募者	桐淵 玲央（ものづくり大学大学院）

講評

「順応する家」は環境の力を積極的に活用することにより、住まう人とともに敷地の自然条件に順応するという着眼点が非常に興味深い。風や日射、素材についてよく検討されており、特に西日の影響を受ける壁面を蓄熱壁として夏の遮熱対策と冬の暖房効果に活用するように考えられている。地場の木材（廃材を含む）の鏡戸張り仕上げや左官壁の活用は、住む人への心への配慮もされて、設計者のコンセプトが非常にわかりやすくプレゼンテーションに反映されており、賞賛に値する作品です。

（講評：宇佐見 佳之 会長）



入 選

住宅提案部門（リフォーム部門）

100%自然素材の 貸家をより環境に やさしく 栗原村の家

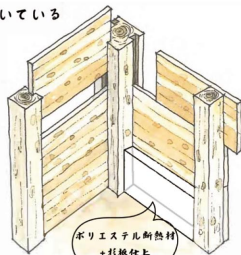


賃貸住宅にあって前ストープを撤去
自然素材+ハイオマス
建築時から使用熱源などにもこだわる

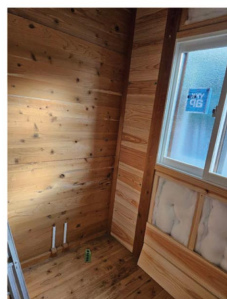
2000年に新築を行った、自然素材で作った賃貸住宅の断熱リノベーション。
今回は貸家である一戸建てを、新築時にあったコストの面と、内装に自然素材をという希望を、板倉の落し板壁構法をアレンジした実験的施工を元に解決。
残った賃貸ならではのメンテナンス問題。通常賃貸物件では、次の借主が入るまでに壁のクロスの貼り替えや部屋内の清掃、杉の板壁自体が汚れた場合にどうするか？そこで板倉ならではの逆転の発想。それは後述メンテナンス（クロス等が汚れたり破れたりしたらまずははがす）ではなく、前送メンテナンスという考えだ。

これは、前記の後述の逆で杉の板壁が汚れたら、上に仕上げを重ねる作業をする事で、余分な手間やゴミを削減する。そこに昨今の気候危機を踏まえた断熱強化を組み合わせ。
今回は真壁であった壁を残したままの計画。提案の結果、建主さんは「汚れも逆に言えば味わいで木物の材（今回は杉板）であればなおさら古材的な価値も出るのでは」と言っている

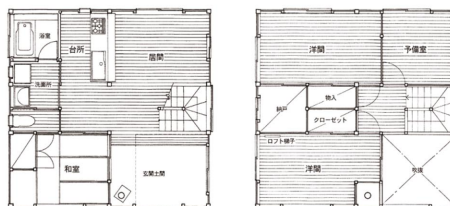
千葉工務店版
落し板壁工法



ポリエステル断熱材
+杉板仕上げ

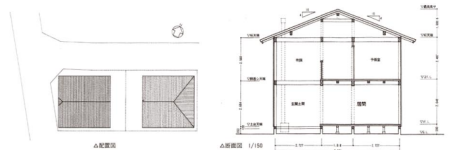


窓には
樹脂窓
を設置



△1階平面図 1/150

△2階平面図



△北立面

△南立面

今回の改修は、従前からの計画にある自然素材100%の賃貸を断熱的に強化することによって、より環境配慮された建物に改修することを目的としました。
昨今の暖房を暖房はエアコンの初めの向上、併せて冬の前ストープの効果を狙いつつ、今回の改修でも廃棄物を出さない施工を旨とした。総合的に気候危機対策に、工事の面でも大きく貢献しています。

改修前 外皮無垢材30mm 天井、壁、床
サッシアルミシングル
Ua値 2.30w/m²・k
改修後 外皮無垢材30mm 天井、壁、床
天井、壁ポリエステル断熱材105+仕上げ無垢板12mm追加
サッシアルミシングル（ペアガラス樹脂内窓全て設置）
Ua値 1.35w/m²・k

森から住宅を考える
栗原村の家 リフォーム

所在地	さいたま市
構造・階数	木造2階
延床面積	98.54㎡
建築面積	53.00㎡
工事費	約500万円
応募者	株式会社千葉工務店 代表取締役 千葉 弘幸
設計者	千葉 弘幸
施工者	千葉工務店

講 評

貸家という条件、住宅としての性能も考慮しつつ、コスト、利回りなども重視される。そのような制約の中で、24年を経過した賃貸住宅の入居者入替の内装リフォーム時に、廃材を少なくする施工、断熱性能の向上など、少しずつの工夫の積み重ねの結果、賃貸住宅でのメンテナンス問題もローコストに解決、次の入居者に環境に配慮され、性能が向上した住宅の提供が可能となりました。今後のリフォームにも期待したい作品です。

（講評：丸岡 庸一郎 委員）